

■温室効果ガス削減の目標

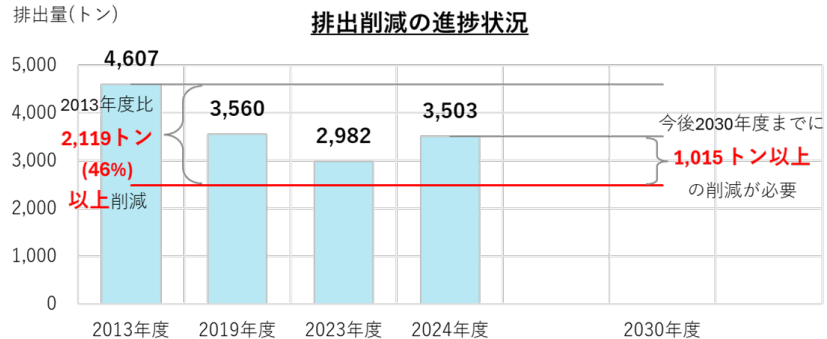
	削減目標 (政府目標値)
2030年度	2013年度比 46% (2,119トン) 以上
2050年度	カーボンニュートラル

■温室効果ガス排出量の推移

松山空港の2024年度の温室効果ガス排出量は、2023年度比522トン増加の3,503トンである。
2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後1,015トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)			
	2013年度	2019年度	2023年度	2024年度
空港施設	4,169	3,190	2,603	3,136
空港車両	438	369	379	368
計	4,607	3,560	2,982	3,503

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数…2019年度：0.528、2023年度：0.454、2024年度：0.464
空港全体の商用電力使用量(kWh) …2019年度：580.7万、2023年度：557.3万、2024年度：637.4万

■2020年度～2024年度の温室効果ガス排出量の増減背景

松山空港では、2020～2024年度にかけて、貨物上屋施設の新築 (2021年度、2022年度) や国際線施設が増改築 (2023年度) の施設整備が行われた。商用電力使用量の増加、主に契約されている電力会社の排出係数の上昇 (2023年度比) を主な背景として、温室効果ガス排出量が増加傾向にある。この間、空港の利用 (航空機運航回数や旅客数) はコロナ前水準以下に留まっている。

■2020年度～2024年度の脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 建築施設照明のLED化や省エネルギー運用、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等の取組が行われた。 ▶ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	▶ 電動車の導入が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	(当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし)
その他の取組	▶ トーイングトラクターで高純度バイオディーゼル燃料「B100燃料」の実証実験が行われた。